J-SIP-B150

M14-8

フィッシュガール®を中心とした産学官連携での愛媛県産魚ＰＲ活動

○鈴木　康夫（愛媛県立宇和島水産高等学校）

１．はじめに

愛媛県立宇和島水産高等学校は、海洋技術科、水産増殖科、水産食品科の３科を設置する愛媛県下唯一の水産高校である。教育目標は、「水産・海洋の未来を拓く教育の推進」　～心豊かでたくましく海と生きるスペシャリストの育成～であり、生徒に身に付けさせたい力として①創造力②課題発見力③継続力④行動力（主体性）⑤適応力（柔軟性）⑥信頼力（規律性）の６つを挙げている。

水産食品科では、地域に根差した水産高校を目指して 2005 年より本格的に地域の企業・行政・団体と連携した活動を行っている。その取組の一つとして、フィッシュガール®の活動が 2012 年より始まり 2022 年現在で 11 年目となっている。今回は、このフィッシュガール®の取組について事例発表を行う。

２．フィッシュガール®とは

フィッシュガール®とは水産食品研究部の生徒が行っている活動である。愛媛県産養殖クロマグロの解体ショーを行っている。主に愛媛県営業本部及び愛媛県農林水産部水産局漁政課、地元の水産会社と連携し、全国各地の百貨店や量販店等において実施される「愛媛県フェア」や「愛育フィッシュフェア」において、この愛媛県産養殖クロマグロの解体ショーが行われ、産学官連携の愛媛県産魚プロモーション活動となっている。この取組は 2016 年度をピークに 2022 年年 10 月現在で 264 回行っている。また、フィッシュガール®という名称は、模倣を防ぐために、愛媛県が商標登録を行っている。（商標第 6308543 号）

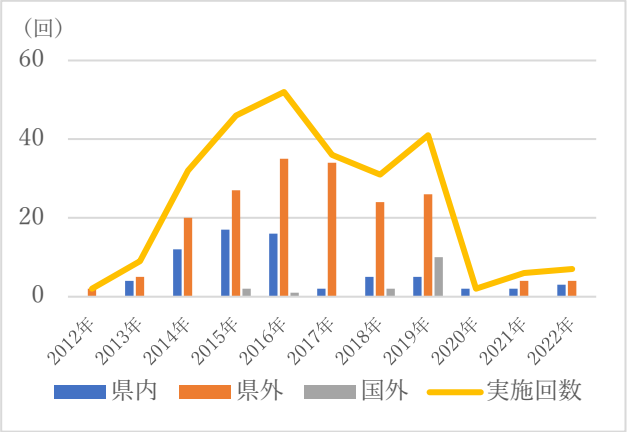

図１　解体ショーの実施回数

図２　第１回マグロ解体ショー（2012 年）

３．取組のきっかけ

愛媛県では「愛媛で愛情を込めて育てた魚」を愛育フィッシュ(商標第 5530930 号)と呼び国内外でＰＲを行っているが、まだまだ知名度は低い。クロマグロの養殖をしている日振島養殖ＬＬＰ代表福島和彦氏と鈴木は 2012 年当時同じ地域活性化の会に参加しており、何か一緒に地域活性化に関する取組ができないかと考えていた。鈴木は、高知海洋高等学校が実習船で捕ったマグロを利用したマグロ解体ショーを行っていることを聞いており、愛媛県が売り出し中の養殖クロマグロを使って解体ショーが行えないかと考えた。

宇和島水産高校ではまぐろ缶詰を製造しており、缶詰を製造する際に生徒がビンナガを解体する。そこで、生徒の技術を生かして福島氏が育てているクロマグロの解体ショーができないかと提案し、面白そうな取組であると考えた福島氏は愛媛県農林水産部ブランド戦略課（当時）西村幹史朗氏に持ちかけたところ、「産学官連携でＰＲを行いましょう」となり、2012 年にフィッシュガールの取組が始まった。

４．産学官連携のメリット

（１）企業の視点

企業は、愛媛県でクロマグロの販売先の新規開拓や売り上げ増加につながることが期待される。

（２）学校の視点

学校は生徒が流通現場の最前線で活動できる。この活動を行うことにより、生徒に様々なスキルが身に付く。フィッシュガール®になりたいという目的を持った生徒の入学が見込まれる。活動により卒業後の進路の幅が広がり、フィッシュガール®以外の生徒も恩恵を受けている。

（３）行政の視点

愛媛県フェア等を開催するときに小売店との交渉の目玉イベントとなり、フェア開催がスムーズに行える。

このように、産学官それぞれにメリットがあり、フィッシュガール®を中心とした産学官連携での愛媛県産魚ＰＲ活動は win-win-win の関係となっている取組である。

５．なぜこの取組が成功しているのか

この取組は 11 年間継続しており、成功している事例であると言える。では、なぜこの取組が成功しているかについて考察した。

・愛媛県の政策と合致している
・産学官 3 者ともにメリットがある
・他にない取組（解体ショー自体はあるが産学官連携での活動はほとんどない）
・女子生徒が解体ショーをするという新鮮さ
・うまくないのが面白い
・対象者の心に響く（子供や孫の年代が頑張る姿がうける）
・ＭＣがおもしろい
・フィッシュガール目当てで入学してくる生徒が実施するのでモチベーション高い
・初めの仕掛けがうまかった（日本橋三越でお披露目）
・メディアで多く取り上げられた
・活動する生徒が純粋

６．フィッシュガール®の卒業後の進路

フィッシュガールとして活躍した生徒の進路状況は非常に良い。フィッシュガールの活動で訪れた関西や関東の水産会社、一緒に活動をした地元の水産会社に入り営業をする生徒、地元をもっとＰＲしたいということで地元の郷土料理店で働く生徒、また、もともと持っていた夢をかなえようと美容師・看護師になる生徒、地元の水産業を活かした観光を開発したいと大学の国際観光学部に進む生徒など、ほとんどの生徒が高校時代にフィッシュガールの活動を通して、自分の進路が明確となり、進路を決定している。

７．フィッシュガール®から生まれた教育プログラム

フィッシュガール®の活動を通して、その他の生徒にも教育プログラムを開発することができた。ＳＰＨ事業では、フィッシュガール®の活動で身に付くコンピテンシーとして、コミュニケーション力（プレゼンテーション力、傾聴力、議論力）、創造力（発想する力、探求する意欲）、知識獲得力（情報収集力）、多様性創発力（協創力）などが身に付いていると分析している。これらのことより、授業の中で模擬解体ショー（お客さん役を交代で生徒が行うショー）を取り入れた実習を行うことによりフィッシュガール以外の生徒の育成にも役立つと考え、2018 年より模擬解体ショーを校内で実施している。

【謝辞】

本研究は，2017 年～2019 年年度文部科学省 SPH 事業において生徒のコンピテンシー評価研究を行った。本研究に関わっていただいた皆様に深謝いたします。

（suzuki-yasuo@school.esnet.ed.jp）